



防災対策情報便

令和7年3月号

01 あの日から14年

私達に大きな悲しみを与えた東日本大震災から今年で14年が経ちました。

東日本大震災は、2011年3月11日14時46分頃に発生したマグニチュード9.0の地震で、全世界でも、チリ地震やアラスカ地震、インドネシア・スマトラ島沖地震に次ぐ、1900年以降4番目の巨大地震です。

各地を襲った津波の高さは、福島県相馬市で9.3m以上、岩手県宮古市で8.5m以上、宮城県石巻市で7.6m以上などが観測されたほか、宮城県女川漁港では14.8mの津波痕跡も確認されています。



また、陸地の斜面を駆け上がった津波の高さである遡上高では、国内観測史上最大となる40.5mが観測されました。

(出典：国土交通省東北地方整備局震災伝承館)

釜石の奇跡

岩手県釜石市では、約1,300人もの死亡者・行方不明者がいますが、鵜住居小学校と釜石東中学校の生徒約570人は、全員無事に避難することができました。

「釜石の奇跡」は、子どもたちの運が良かったからというのではなく、この地域で日頃から自分たちが行っている行動を当たり前に実践した結果が起こしたものです。

子どもたちは、自らの手で登下校時の避難計画を立て、年間5～10数時間の防災授業を受けており、さらには、年に1回、鵜住居小学校と釜石東中学校の合同訓練を実施することで、「小学生を先導する」「まず高台に逃げる」という教えが徹底されていました。

このように、奇跡を起こすためには、奇跡を起こすための準備、すなわち、日頃からの災害への備えや訓練が重要なのです。

(出典：総務省消防庁HP)



02 阪神・淡路大震災30年事業

「1.17は忘れない」地域防災訓練

令和7年1月17日(金)に、市内の小学校6会場で「1.17は忘れない」地域防災訓練を実施しました。震災の記憶の風化を防ぐため、阪神・淡路大震災の教訓について、震災を振り返りながら、改めて自分に何ができるのかを一人ひとりが考え、実践してもらうためのきっかけとなりました。



尼崎市立歴史博物館 第13回企画展「尼崎・災害の歴史」

令和7年1月11日(土)～3月30日(日)の期間中に尼崎市立歴史博物館で、企画展「尼崎・災害の歴史」が開催されました。

尼崎市に被害をもたらした自然災害の歴史、阪神・淡路大震災での尼崎の被害状況や、文化財レスキュー(被災した文化財の緊急保全)等について、実物資料や写真が展示されており、たくさんの市民の方々にご観覧いただきました。



深海から聞こえてくる地球へのメッセージ

令和7年1月25日(土)に市内の小学生を対象に、国際ロータリー尼崎グループ主催の講演会「深海から聞こえてくる地球へのメッセージ」を実施しました。

その後、「応急給水栓の設営」・「マンホールトイレ組立訓練」・「段ボールベット組立訓練」を行いました。参加した子ども達は実際に段ボールベッドに寝転がってみたりと大盛況でした。



防災ポスターの展示

令和7年1月28日(火)～3月28(金)にかけて、市内各所(市役所本庁舎や各地域の生涯学習プラザ、JR尼崎駅自由通路)で、防災ポスターコンクールの応募作品を展示しました。

尼崎市の子ども達が「防災」をテーマに描いた作品で、地域の皆さんが足を止めて見ていました。



▼ 最優秀賞作品 (小学4年生)



防火・防災フェア

令和7年3月1日(土)に、尼崎市防災センターで体験型イベント「防火・防災フェア」が開催されました。

当日は、1,200人以上の方が来場され、レスキュー体験やはしご車搭乗体験、阪神・淡路大震災発災当時の写真の展示など、多くの方に防火と防災の大切さを学んでいただきました。



03 その他のイベント

県民公開講座「災害に備え、健康を守る」

令和7年1月19日(日)アルカイクホール・オクトにて、兵庫県薬剤師会と尼崎市薬剤師会が主催で県民公開講座が開催されました。過去の教訓を学ぶことを目的に、災害時の健康管理の重要性を広く県民に伝えました。

薬剤師、医師、防災士などの専門家による講演や災害関連の展示を通じて、「災害に備え、健康を守る」をテーマとして防災意識の向上につなげました。



災害時要援護者支援連絡会

令和7年2月5日(水)に実施した「災害時要援護者支援連絡会」は、自主防災会をはじめ、当事者団体や介護施設の方などの多様な団体の方にもご参加いただき、災害時に行政と各団体が連携して迅速に支援できるよう様々なテーマで議論する会議です。

今年度は、第一回の会議で「逃げ遅れる障害者・高齢者等」をテーマに実施した講義内容を踏まえて、第二回は、行政をはじめ、各団体が支援の必要な方々にどのようなアプローチができるのかそれぞれの視点で議論しました。



レスポンスブル・ケア兵庫地区地域対話

令和7年2月15日(土)に「レスポンスブル・ケア兵庫地区地域対話」が尼崎市中心企業センターで開催されました。

この事業は、一般社団法人日本化学工業協会RC委員会兵庫地区会員企業が主催しており、地域住民と行政機関、企業から約80人が出席し、防災についての取組や企業の事例報告の発表などがあり、防災についての意識を高める場となりました。



寄贈式の実施

令和7年1月25日(土)に国際ロータリー尼崎グループより、段ボールベッド(100床)をいただき、中小企業センターにて寄贈式を行いました。



令和7年3月10日(月)に兵庫六甲農業協同組合及び全国共済農業協同組合連合会兵庫県本部より、兵庫県産三田米こしひかり(300グラム×2,160袋)をいただき、市長室にて寄贈式を行いました。



04 お知らせ

指定避難場所等の指定・解除



【指定避難場所】

- ・武庫健康ふれあい体育館(収容人数386名) : 4月1日(火)指定(予定)

【津波等一時避難場所】

- ・クリーンセンター第1工場(収容人数80名) : 2月28日(金)指定解除
- ・大高洲庁舎(収容人数80名) : 3月1日(土)指定
- ・日鉄鋼板SGLスタジアム尼崎(収容人数1,460名) : 3月1日(土)指定
- ・園田競馬場騎手住宅(収容人数510名) : 4月1日(火)再指定(予定)
- ・武庫健康ふれあい体育館(収容人数280名) : 4月1日(火)指定(予定)

【大火災避難場所】

- ・小田南公園(収容人数10,840名) : 3月1日(土)再指定

協定締結のお知らせ

【災害時における被災者相談業務の実施に関する協定】

相手方：兵庫県司法書士会

協定内容：(1)相続に関する相談

(2)不動産登記及び商業、法人登記に関する相談

(3)不在者財産管理制度及び相続財産管理制度に関する相談

(4)成年後見制度に関する相談

(5)その他司法書士法に定める業務に関する相談



【災害時における資材及び生活物資等の確保並びに施設の利用に関する協定】

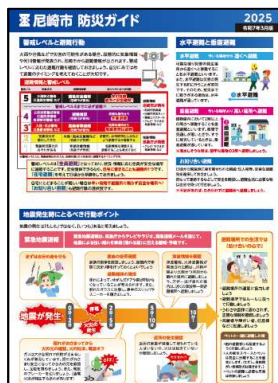
相手方：ロイヤルホームセンター株式会社

協定内容：(1)資機材及び衛生用品、日用品などの生活物資等の提供

(2)災害時における施設の利用協力

ハザードマップが新しくなりました

令和7年3月に新しいハザードマップを公表しました。新ハザードマップは尼崎市ホームページで公開しており、令和7年度中に全戸配布を予定しています。



【新しいハザードマップの特徴】

- ・洪水ハザードマップについては、庄下川など中小河川を含めた想定最大規模降雨による内容に更新。
- ・内水ハザードマップについては、既往最大降雨から想定最大規模降雨による内容に更新。
- ・市民の皆様には災害時の避難行動等を分かりやすく説明したイラスト入りの啓発情報面を新たに追加。



◀ 尼崎市ホームページ